

イギリス、ロンドンのRoyal College of Art (RCA、王立芸術大学院)、Innovation Design Engineering 学科の博士課程に所属している、吉本英樹です。現在の研究内容と、学外活動の状況などをレポートしたいと思います。

## 研究の進捗

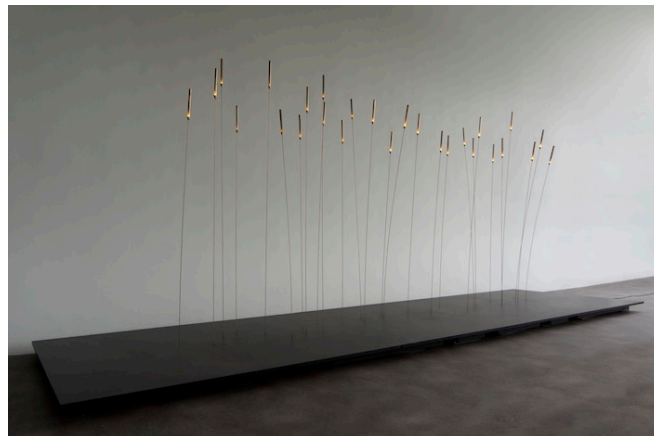
現在の研究のテーマは、デザインに「リズム」を与えること、それによってものに生命感を表現することです。従来のプロダクトデザインや建築デザインにおいては、特に生命や自然からのインスピレーションというのは、往々にして有機的な形状や質感によって表現されてきました。しかしながら、例えば真っ白い無機的な立方体でも、トクトクと鼓動を始めれば途端に生々しく生命感を感ずるように、生命や自然界に存在する多種多様な時間上のリズムというのは、形状や質感以上に生命を強力に表現でき、それはこれからのデザインにおいて重要な道具の1つになるのではないかと提案しています。この指針のもと、規律正しいリズムからランダムなリズム、速いリズムからゆっくりとしたリズム、1つのリズムから干渉し合う複数のリズム等々の様々なリズムと、さらにデジタルからアナログまで様々な形態での表現を掛けあわせて、リズムをデザインに取り入れる試行錯誤をしています。リズムというテーマを土台に、本当にものに生死を感じて感動を覚えるほどのデザインができればと思っています。博士課程の実質の最終学年を迎え、思えば研究テーマも時々で悩みながら本当に右往左往して変わって来ましたが、ようやく腰を据えて、このテーマで博士論文を仕上げたいと思います。博士課程取得までもうひと踏ん張り、頑張ります。



ブレインストーミングの実験群

## 学外の活動

博士課程の一環として作品づくりを続けてきて、red dot: design conceptのBest of the best awardなど、国際的なデザインの賞を幾つか獲ることができました。また2013年からは、東大工学部時代から一緒に作品づくりをしてきたグラフィックデザイナーのパートナーと共にデザインスタジオ「tangent:」を発足し、四月のミラノサローネ（来場者数33万人を越える世界最大のデザイン家具見本市）でデビューしました。レクサスが主催する国際デザインコンペ「Lexus Design Award」でもtangent:として受賞し、その賞としてミラノサローネのレクサスの展示場にて大きなインスタレーションを発表したほか、自分達のブースも展開しました。レクサスブースで発表したのは、INAHOという作品です。稲穂に着想を得たライトのインスタレーションで、カーボンファイバーの細い茎の先端に光源があり、モミを思わせるドット状の光を発します。人感センサと人工筋肉のアクチュエータが埋め込まれていて、人が歩くと、それに合わせて発光しながら稲穂が揺れ始めます。tangent: ブースで発表したのはKIHOUという作品です。これはもともと博士課程での実験の1つから派生した作品ですが、二種類の液体と気泡を用いたライトです。小型のポンプが高粘度の液体にリズミカルに気泡を発生させ、その内側から光が透過します。いずれの作品も高い評価を得ることができ、ミラノサローネ終了後も問い合わせを頂いています。今後も博士課程の背景でtangent:の活動をキープしつつ、学位を取得したタイミングからtangent:として本格的に独立して仕事をしていけるようなプランを実現できればと思っています。



INAHO



KIHOU